

Newsletter from KUIS Research Institutes

vol. 3
2023.11.15



神田外語大学 言語教育研究所 / 日本研究所 / グローバル・コミュニケーション研究所

【日本研】シーボルト来日200周年記念 展示会・講演会

「賀来佐之と伊藤圭介 二人の門人」

今号は日本研究所から、シーボルト来日200周年を記念した展示会・講演会についてお知らせします。監修・講演を行う日本研究所客員教授・松田清先生に、展示のみどころと講演内容について聞きました。

【展示会】附属図書館 主催

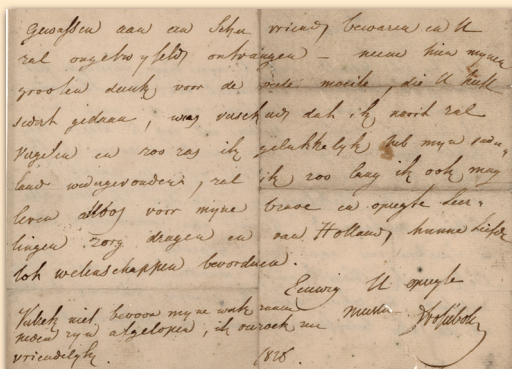
12/12(火)～21(木)10:00～16:00

※ 12/16(土)、12/17(日)は休館

会場：7号館 附属図書館 展示室

展示のみどころ

近代植物学の成立は西欧植民地科学の歴史的展開でもあります。その観点から、ノローニャ原著『ジャワ植物図譜』宇田川榕菴写本、桂川甫賢筆『長崎屋宴會図』シーボルトの二人の門人賀来佐之(かく・すけゆき、1799～1857)と伊藤圭介(1803～1901)が協力したシーボルト「日本植物目録」写本、佐之あてシーボルト書簡(いずれも附属図書館 神田佐野文庫蔵)を展示し、パネル写真も加えて、賀来佐之の業績に光をあてます。



▲賀来佐之あてシーボルト蘭文書簡(附属図書館蔵)



▲日本植物目録(附属図書館蔵)

【講演会】

日本研究所 主催

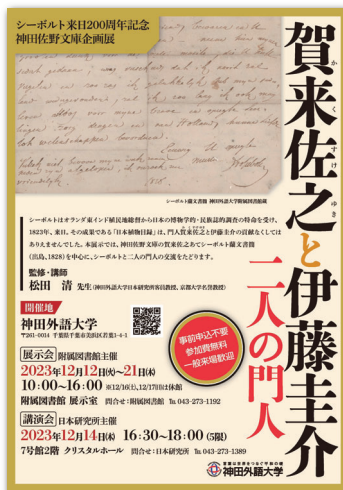
12/14(木)
16:30～18:00
(5限)

※ 事前申込不要、参加費無料

会場：7号館2階 クリスタルホール

講演内容

シーボルトはオランダ東インド植民地総督から日本の博物学的・民族誌的調査の特命を受け、1823年来日。その成果である「日本植物目録」は、門人賀来佐之と伊藤圭介の貢献なくしてはありえませんでした。本講演では、日本における伝統的な本草・医学と近代植物学導入との関わりを、シーボルトの二人の門人賀来佐之、伊藤圭介の業績を通して考察します。



松田清先生紹介

1947年愛知県生まれ。京都大学名誉教授。研究分野は、日本洋学史、日欧知識交流史、書誌学、近世京都学。主な著書に『洋学の書誌的研究』(臨川書店、1998)、『訓読豊後国志』(共編、思文閣出版、2018)、『京の学塾(まなびや) 山本読書室の世界』(京都新聞出版センター、2019)などがある。



お問い合わせ：
日本研究所(1号館3階:1323号室)

大学HP企画展開催案内▶



【GCI】2023 年度 共同研究プロジェクトの紹介

■ 学際的なアプローチによる SDGs 研究

研究代表者：河越 真帆 先生 (GLA 学科 准教授)

共同研究者：

石井 雅章 先生 (GLA 学科 教授)

上野 太祐 先生 (GLA 学科 准教授)

田島 慎朗 先生 (関西大学 外国語学部 准教授)

叶 尤奇 先生 (IC 学科 講師)

高橋 麻奈 先生 (GLA 学科 講師)

研究概要：世界で SDGs への認知度が浸透している一方で、課題もあります。SDGs に対しての世界各国・各地域・各団体・各人の認識や取り組み方は多様であり、SDGs が掛け声だけに終わっている事例も散見されています。例えば、「SDGs wash (見せかけだけの SDGs)」という語さえ誕生しています。このような現状を鑑み、研究者の立場から SDGs を理解する上で重要なことは、幅広い視点に立ち、その是非の両面を見極め、可能な限り客観的に現実を直視することだと考えます。

こうした視点を踏まえ、本研究プロジェクトでは SDGs の多様な側面に対し、研究分担者のそれぞれの問題関心と専門分野から、SDGs を多角的に捉え、SDGs への理解を深めていくことを目的としております。

■ バイカルチュラルな外国語教員のコードスイッチングと授業効果

研究代表者：叶 尤奇 先生 (IC 学科 講師)

共同研究者：申 知元 先生 (IC 学科 講師)

研究概要：今日における大学の課題の一つは学生をグローバル人材に育てることにあります。その育成プロセスには日本人教員だけでなく、多様な文化背景を持つ教員も多数関わっております。そこで、本研究では、後者の教員、特に中国や韓国にルーツを持つ教員が授業を行う際に、(1) 自分自身のバイ／マルチカルチュラルな特性をどのように活かしているのか、そして (2) このような実践は授業運営にどのような効果を与えているのかを明らかにしようとしています。この研究により、教員のキャリア発達を支援する示唆が得られるだけでなく、大学の異文化教育の質的向上にも寄与できると考えています。

【GCI】「在外公館派遣員試験」対策講座 関連ニュース

第 98 回外務省在外公館派遣員試験 本学から 10 名の学生・卒業生が合格

累計
85 カ国
232 名

5月に実施された第98回外務省在外公館派遣員試験で、本学から10名が合格しました。これまでに85カ国232名(大学・学院含む)を世界各国の在外公館に派遣しています。派遣員は原則2年の任期中、外国語を生かし、その国で外交のサポート業務に携わる稀少な経験を積みます。任期終了後は、外務省、地方自治体、大手企業などへの就職をはじめ、国内外の大学院に進学するなど、より視野と選択肢を広げながら活躍しています。

在外公館派遣員試験対策講座は、毎週水曜日4限に開講中。この講座では毎年、元国連大使の吉川元偉先生をはじめ、派遣員経験者、一時帰国中の現役派遣員など、多数のゲストスピーカーによる特別講義も開催しています。お問い合わせは、GCI 事務室 (gci@kanda.kuis.ac.jp) まで。

第 98 回外務省在外公館派遣員試験合格者 派遣先

<英語受験> 在パキスタン日本国大使館、在デンバサル日本国総領事館、在ミャンマー日本国大使館、在アラブ首長国連邦大使館、在ガーナ日本国大使館、在ザンビア日本国大使館、在アゼルバイジャン日本国大使館、在ルーマニア日本国大使館、在バングラデシュ日本国大使館

<ポルトガル語受験> 在アンゴラ日本国大使館

外務省在外公館派遣員 ▶



【日本研】附属図書館 神田佐野文庫常設展示

第 2 回

「大黒屋光太夫のロシア文字「福寿」 3号館1階展示エリアにて開催中

監修：松田 清 先生 (日本研究所 客員教授)

大黒屋光太夫の書き残したロシア文字「ФУКЖИЮ」(フクジュ)を手がかりに、明治初期までの日本とロシア、アイヌとの交流史、園芸と和歌の文化史を読み解きます。

展示の複製資料

『蝦夷地歌仙』1801年作 1817年写
『大黒屋光太夫筆ロシア文字「福寿」』1810年代
『福寿草画賛』嘉永年間写
『ろしやのいろは』1861年
『和魯通言比考』1857年
『アイヌ昔噺 仙境の狩人』1887年



和紙に墨と筆で、「ФУКЖИЮ」(フクジュ)と大書し、「ICE. Дав. Кoo」(イセダイコー)と署名する。それぞれ、漢字の「福寿」「伊勢 大光」をロシア文字で書いたもの。「大光」は大黒屋光太夫を略したもので、光太夫が号(ペンネーム)に用いた。

▲大黒屋光太夫筆 ロシア文字「福寿」1810年代 31×47 cm